

シンポジウム

都市の緑は誰のものか

文理を越えた学問からの問いかけ

再開発、道路建設、樹木伐採——
四つの視点と四つの学問から、
都市の緑の価値、公共性、意思決定を問い直す



9月23日(水・祝) 13:00-17:00



明治大学 駿河台キャンパス
グローバルフロント1階 グローバルホール

予約不要・参加自由

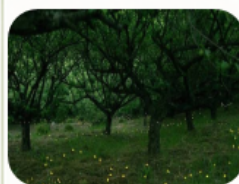
登壇者



鯨坂 学

同志社大学社会学部名誉教授

専門：社会学
現場：京都府立植物園



太田 和彦

南山大学総合政策学部准教授

専門：環境倫理学・食農倫理学
現場：名古屋市・相生山



高槻 成紀

元麻布大学教授

専門：生態学・保全生態学
現場：東京都・玉川上水



吉永 明弘

法政大学人間環境学部教授

専門：環境倫理学
現場：流山市



コメンテーター

大矢野 修

元龍谷大学政策学部教授
専門：地方自治論



企画・司会

池田 喬

明治大学文学部教授
専門：哲学・現象学



本シンポジウムの目的

現在、再開発や道路建設に伴う都市の緑の伐採が、日本各地で問題となっています。都市の緑は、環境や生態系だけでなく、景観、都市計画、コモンズ、地方自治、環境権にもかかわる公共的な問題です。本シンポジウムでは、それぞれの現場に具体的に関わってきた研究者が、社会学、環境倫理学、生態学、地方自治論の視点から、都市の緑をめぐる意思決定のあり方を問い直します。



関連書籍

太田和彦・吉永明弘 編

都市の緑は誰のものか——
人文学から再開発を問う

ハウレーカ、2024年



主催

明治大学文学部哲学専攻



共催

法政大学人間環境学部 吉永明弘研究室
南山大学総合政策学部 太田和彦研究室



シンポジウム「都市の緑は誰のものか：文理を越えた学問からの問いかけ」

場所：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 1 階グローバルホール

日時： 9 月 23 日（水・祝）13:00-17:00

予約不要・参加自由

主催：明治大学文学部哲学専攻

共催：法政大学人間環境学部吉永明弘研究室、南山大学総合政策学部太田和彦研究室

企画・司会：池田喬（明治大学文学部教授、哲学・現象学）

スピーカー：

鯉坂学（同志社大学社会学部名誉教授、専門：社会学、現場：京都府立植物園）

太田和彦（南山大学総合政策学部准教授、専門：食農倫理学・環境倫理学、現場：名古屋市・相生山）

高槻成紀（元麻布大学教授、専門：生態学・保全生態学、現場：東京都・玉川上水）

吉永明弘（法政大学人間環境学部教授、専門：環境倫理学、現場：流山市）

コメンテーター：大矢野修（元龍谷大学政策学部教授、地方自治論）

趣旨説明：

現在、都市の緑の伐採が多くの場所で問題になっている。神宮外苑や日比谷公園の問題がよく知られているが、それ以外にも、再開発や道路建設などを理由に、多くの反対を無視して、伐採が強行されるケースが後を断たない。このような現状を前に、歴史学、倫理学、地理学、美学などの研究者が、都市再開発のあり方を問うた、太田和彦・吉永明弘編『都市の緑は誰のものか ― 人文学から再開発を問う』（ヘウレーカ）が 2024 年に出版された。

実際、都市の緑は誰のものかという問いは、環境問題というだけでなく、景観やランドスケープの美的問題であり、都市計画やコモンズという政治的・公共的問題であり、また、住民や利用者の声を無視した国や地方行政のあり方の問題でもあり、さらに、環境権などの人権にかかわる法的問題をも含んでいる。このように、この問いは様々な学問分野の知恵を必要としている。

今回のシンポジウムでも、環境倫理学、社会学、地方自治論の研究者が集まり、さらには、生態学の研究者も迎えて、人文学に限られない「文理を超えた問いかけ」を発信したい。今回参加する研究者たちはみな、道路建設や再開発の問題に現場で具体的に関わってもきた。その現場の問題を各自の学問的バックグラウンドから報告してもらう。